



16

第16期 中間事業報告書

平成30年4月1日▶平成30年9月30日

INVESTOR RELATIONS

DELICA REPORT

[デリカレポート]



デリカフーズホールディングス株式会社

DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

東証1部 証券コード 3392



TOP MESSAGE

代表取締役社長

大崎 善保

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。当第2四半期連結累計期間も順調に売上が推移し、ここに中間事業報告をすることができました。これもひとえに、株主の皆様のご理解、ご支援の賜物と、重ねて御礼を申し上げます。

当社グループを含む食品関連業界におきましては、消費者の節約意識は依然として根強く、加えて人手不足の深刻化、原材料価格や物流コストの上昇等、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは、メニューや産地提案等の営業活動を推進し、また、国内外産地の積極的な開拓を行うことで、調達力を強化してまいりました。さらに、お客様からエフェスロジスティックス(株)の物流インフラを高くご評価いただけたこと、人手不足の深刻化に伴いカット・真空加熱野菜の需要が増加したこと等により、新規顧客の獲得及び既存取引の深耕が順調に進展いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は19,460百万円(前年同四半期比9%増)となりました。

利益面につきましては、相次いで発生した自然災害の影響により全国の産地が甚大な被害を受け、収穫量が減少し、それに伴い、野菜価格の高騰、作業効率の大幅な悪化、及び多くの廃棄ロスが発生いたしました。加えて、平成30年5月に開設した中京FSセンターの立上げ費用の発生及び減価償却費の増加、人手不足に伴う採用・育成に関わる費用の増加等により、営業利益は235百万円(前年同四半期比19.5%減)、経常利益は275百万円(前年同四半期比14.9%減)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別損失として投資有価証券評価損を計上したことにより147百万円(前年同四半期比28.7%減)となりました。

今後もさらなる企業価値向上と業績回復に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

業績の概況

第2四半期連結累計期間の売上高としては過去最高を計上いたしました。

当第2四半期連結累計期間の業績

売上高 **19,460**百万円
(前年同四半期比9.0%増)

営業利益 **235**百万円
(前年同四半期比19.5%減)

経常利益 **275**百万円
(前年同四半期比14.9%減)

親会社株主に帰属する
四半期純利益 **147**百万円
(前年同四半期比28.7%減)

1株当たり
四半期純利益 **19.99**円

取締役のご紹介

取締役(未来開発最高役員)



にわ ますみ
丹羽 真清

デザイナーフーズ株式会社
代表取締役社長 兼任

取締役



こばやし けんじ
小林 憲司

デリカフーズ株式会社
取締役社長 兼任

社外取締役



おざき ひろゆき
尾崎 弘之

代表取締役社長

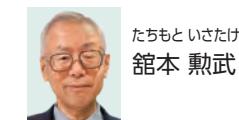
社外取締役



しばた みすず
柴田 美鈴

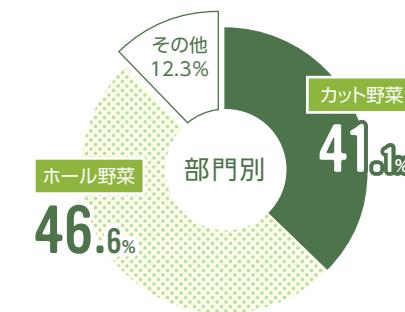
代表取締役社長

取締役会長

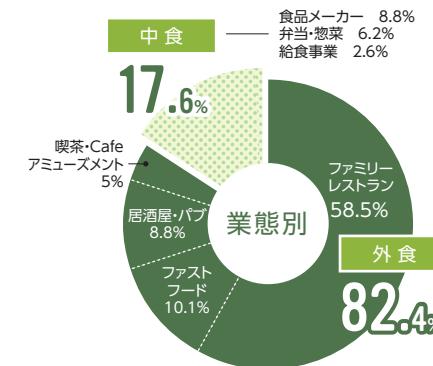


たちもと いさたけ
館本 勲武

販売構成比



カット野菜とは、お客様のご要望に合わせて加工された野菜です。継続的な人手不足の影響により、年々需要が高まっています。また、第三の基軸商品として展開している真空加熱野菜もカット野菜に分類されます。



外食・中食と大きく分けて2つの業態があり、全体の8割以上が外食業界に向けた売上となっております。

※ファミリーレストランには、イタリア料理、中華料理、和食等の業態も含まれております。

DELICA FOODS HOLDINGS
**中京
 FSセンター
 開設!**
 New Open!



デリカフーズ(株) 名古屋事業所
 中京FSセンター
 住 所 愛知県弥富市子宝
 2-185
 オープン 2018年5月
 投資金額 7億5千万円
 売上高規模 約30億円

グループのインフラを構築すべく稼動開始

当社グループは、第三次中期経営計画「Next Change2020 ~次なる変化~」における事業戦略「拠点増設政策の継続」に基づき、愛知県弥富市に「中京FSセンター」を開設いたしました。この新たな拠点は、デリカフーズグループ初の貯蔵機能を有する施設として、天候不順時等の安定供給に力を発揮します。



青果物を温度別貯蔵

十分な貯蔵スペースを確保するため、3段移動式自動ラックを設置しました。これにより、約1万ケースの青果物を保管することが可能になります。また、青果物の特性に合わせて複数の温度帯で管理することで、青果物の長期貯蔵を実現します。



複合デジタルピッキングの導入

既存のデジタルピッキング※に、より多くの店舗の青果物を仕分けできるシステムを追加しました。作業効率化をすすめ、省人化に対応してまいります。

※デジタルピッキングとは、棚に取り付けられたデジタル表示器の指示に従って、青果物を摘み取っていくピッキングシステム。



デリカフーズ(株) 取締役
 名古屋事業所長 江原 聖二

point 01 青果物を一括で大量に仕入れることで、運搬コストを削減

名古屋事業所の責任者として、子宝工場、かの里工場、そして新しく完成した中京FSセンターを統括しています。中京FSセンターは、グループインフラの中心である名古屋に位置し、大型の冷蔵貯蔵施設として、グループ共有の原料をストックしています。これまで東京・名古屋・大阪で同一の産地から別々に調達をしていましたが、今後は中京FSセンターに一括納品し、自社幹線便で各地に分配することで物流費を削減します。また、デザイナーフーズの研究室が中京FSセンター内に移転したため、研究室と連携した「美味しく健康的なキットメニュー」の提案も進めてまいりたいと考えております。



デリカフーズ(株) 名古屋事業所
 商品部 部長 平野 博基

point 02 入荷が効率的になり、気候変動のリスクにも対応可能に

商品部ではお客様からご注文いただいた野菜の調達を行っています。今回、中京FSセンターが完成したことで、天災などのリスクに柔軟に対応できるようになりました。例えば台風などで野菜の入荷量が減り、相場が高騰することが予想された場合、事前に多く仕入れをし、低温貯蔵庫で保管します。これにより欠品のリスクと調達コストを最小限に抑えることが可能になりました。今後も中京エリアのハブセンターとして、美味しい野菜をお客様にお届けできるよう尽力してまいります。



デリカフーズ(株) 執行役員 名古屋事業所
 管理部 部長 森内 こず江

point 03 職場環境を整備し、従業員のモチベーションを向上

管理部では従業員の方が気持ちよく働ける環境を整備しています。中京FSセンターの内装を考える上で特に意識したのは色彩です。食品会社の工場はモノトーンになりがちですが、中京FSセンターの休憩室や更衣室等は色彩豊かになっています。働いて下さる皆さんが少しでもリラックスできるよう工夫をしました。また、工場内にエレベーターを設置し、移動の負担が軽減されるよう配慮をしました。



照明や色彩を工夫し明るい空間となるよう意識しました。

日本全国に広がっているデリカの輪、一層拡大中！



四半期連結貸借対照表 (要旨)

単位：千円

科 目	第15期 前連結会計年度 (平成30年3月31日)	第16期 当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
■資産の部		
流動資産	9,363,103	8,500,959
固定資産 ①	9,882,321	10,789,524
資産合計	19,245,424	19,290,483
■負債の部		
流動負債	5,408,904	5,794,890
固定負債	6,296,749	5,933,412
負債合計	11,705,654	11,728,303
■純資産の部		
株主資本	7,373,385	7,405,680
その他の包括利益累計額	166,384	156,499
純資産合計	7,539,770	7,562,180
負債純資産合計	19,245,424	19,290,483

四半期連結損益計算書 (要旨)

単位：千円

科 目	第15期 前第2四半期連結累計期間 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	第16期 当第2四半期連結累計期間 自平成30年4月1日 至平成30年9月30日
売上高	17,861,138	19,460,114
売上原価	13,724,515	14,994,401
売上総利益	4,136,623	4,465,712
販売費及び一般管理費	3,843,493	4,229,816
営業利益	293,129	235,896
営業外収益	46,315	54,041
営業外費用	15,931	14,642
経常利益	323,513	275,295
特別利益	3,505	1,872
特別損失 ②	6,438	44,068
税金等調整前四半期純利益	320,581	233,099
法人税、住民税及び事業税	113,759	85,718
親会社株主に帰属する 四半期純利益	206,821	147,380

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

単位：千円

科 目	第15期 前第2四半期連結累計期間 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	第16期 当第2四半期連結累計期間 自平成30年4月1日 至平成30年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	348,333	269,395
投資活動によるキャッシュ・フロー	△168,355	△859,642
財務活動によるキャッシュ・フロー	△867,999	△170,053
現金及び現金同等物の増減額△は減少	△688,021	△760,301
現金及び現金同等物の期首残高	4,462,725	3,921,759
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,774,703	3,161,458

	第15期 前第2四半期連結累計期間 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	第16期 当第2四半期連結累計期間 自平成30年4月1日 至平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益(円)	28.11	19.99
1株当たり純資産額(円)	981.48	1,025.59
自己資本(百万円)	7,235	7,562
自己資本比率(%)	40.0	39.2

〔「税効果会計に係る会計基準」の一部改正〕(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

決算数値
POINT

① **固定資産** 固定資産は、前連結会計年度末に比べ9.2%増加しました。これは主に、建物及び構築物が729百万円、建設仮勘定が183百万円増加したことなどによります。

② **特別損失** 特別損失の主な内訳は、投資有価証券評価損29,400千円、不動産取得税等13,328千円となっております。

NEWS | デリカフーズ㈱

デリカフーズ株式会社
新社長に小林憲司が就任

デリカフーズ株式会社取締役社長に小林憲司が就任いたしました。新社長による指揮のもと一層の努力を重ねてまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



略歴

平成15年、東京デリカフーズ㈱(現デリカフーズ㈱)入社。営業部長、神奈川事業所長を経て、平成21年には同社取締役、26年に同社常務取締役、28年に東京デリカフーズ㈱(現デリカフーズ㈱)取締役副社長に就任。平成30年6月、デリカフーズ㈱取締役社長に就任。

SYSTEM | デリカフーズホールディングス㈱

役員報酬制度を見直し
譲渡制限付株式報酬制度を導入

このたび役員報酬制度の見直しを行い、当社及び子会社の役員を対象に譲渡制限付株式を付与する「譲渡制限付株式報酬制度」を導入いたしました。企業価値の持続的な向上を目指して経営に取り組み、株主の皆様との一層の価値共有を進めてまいります。

譲渡制限付株式報酬制度とは？



RECRUIT 2020

2020年卒採用に向け、準備が進行中

3月の採用活動解禁に向け、着々と準備を進めております。会社説明会には代表取締役社長の大崎が自ら登壇し、就活生に業界の魅力のアピールしています。また、入社後の人材育成にも力を入れており、役員も同行する合宿研修などで、仕事内容の理解や社員間の絆を深めています。



グループ採用担当
デリカフーズ㈱ 人事課 浅香 笑子 ▶

デリカフーズグループの業務フロー

青果物の新たな価値を創造し、 「野菜の生産者」と 「食の提供者」をつなぐ 青果物専門商社

仕入れた野菜を加工し、鮮度を保ったまま全国約1万7千店舗にお届けしています。高いカット技術・パッケージ技術を有する加工工場は、食品安全にも細心の注意を払っています。



加工

デリカフーズ(株)



研究開発
コンサルティング

(株)メディカル青果物研究所
デザイナーフーズ(株)



物流

エフエスロジスティクス(株)

食の提供者



ファミリーレストラン・居酒屋・ファストフードなどの「外食」、コンビニエンス・惣菜・お弁当などの「中食」が主なお客様。素材や産地、野菜を主役としたメニューなど様々な提案を行っています。

スーパーコールドチェーンを実現するために全国に広がるチルド配送網を活かして毎日新鮮な野菜をお届けしています。

野菜の中身分析や機能性研究を実施しています。研究結果を活かして、メニュー提案やコンサルティング業務も行いながら、野菜の新たな価値創造に取り組んでいます。

契約産地など各地で生産される新鮮で高品質な野菜を安定的に仕入れます。契約産地は年々広がり、研究機関や行政との共同開発で野菜の中身評価や土壌改良などにも取り組んでいます。

野菜の生産者



産地
レポート
vol.11

デリカフーズに野菜を納入していただいている生産者のみなさんをご紹介します。

有限会社八千代組合
[茨城県]

茨城県結城郡八千代町



デリカフーズとは15年ほど前にお取引を始めました。加工業者の方に紹介していただき、主にキャベツを納品しています。平成元年に創業し、今年で設立30周年。今後も美味しい野菜が提供できるよう、改良を続けます。

土づくりにこだわり、農薬や化学肥料を減らして有機肥料を活用。

茨城県八千代町。平地が多く風通しが良いこの地にあるのが、有限会社八千代組合です。主に栽培しているのは葉物野菜。関東ローム層の影響で乾燥しやすいため、レタスなどの育成に適しています。創業当時はキャベツのみでしたが、20年ほど前からレタス類も栽培しています。

野菜を作る上で重視しているのは、土づくり。「土が悪いと、どんなに手を加えてもいい作物はできない。」その信条のもと、15年前から土づくりに力を入れてきました。それぞれの畑で土壌分析を行い、バランスを考慮して最適な肥料を与えています。使用するのには有機肥料が中心で、農薬や化

学肥料は使う量を地域平均の半分以下に抑えています。他にも、春作では寒さから作物を守るためにトンネル栽培、秋作では暑さに耐えるように白黒マルチと呼ばれるビニールを使った栽培を行うなど、季節に合わせて手法を少し変えています。こうすることで、年間を通して良質な農産物を出荷できるよう努力しています。

収穫した野菜を、お客様に「おいしい!」「新鮮」と食べていただけることが何よりのやりがいです。これからもニーズに応え続けるために作付面積をもっと増やし、レタス・キャベツの栽培を強化していきたいと考えています。

会社概要

平成30年9月30日現在

商号	デリカフーズホールディングス株式会社		
英文社名	DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.		
設立	平成15年4月1日		
創業	昭和54年10月6日		
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号		
資本金	1,377,113千円		
従業員数(連結)	490名(他、平均臨時雇用者数1,610名)		

役員

代表取締役社長	大崎 善保	社外取締役	尾崎 弘之
取締役(未来開発最高役員)	丹羽 真清	社外取締役	柴田 美鈴
取締役	小林 憲司	常勤監査役	野村 五郎
取締役会長	館本 勲武	社外監査役	森田 雅也
		社外監査役	三島 宏太

会計監査人 仰星監査法人

株式状況

平成30年9月30日現在

発行済株式総数 7,436,000株
株主総数 12,815名

大株主

館本 勲武	1,026,100株
館本 篤志	1,019,200株
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口)	540,700株
日本マスタートラスト 信託銀行(株)(信託口)	394,500株
大崎 善保	130,900株
丹羽 真清	101,900株
岡本 高宏	100,100株
野村 五郎	99,400株
デリカフーズグループ 従業員持株会	88,900株
杉 和也	80,000株

【株主分布状況】

外国法人等	2.11%
その他国内法人	1.00%
自己名義株式	0.84%
金融商品取引業者	0.46%

金融機関
17.6%

個人・その他
77.99%

【所有株式数別分布状況】

100単元以上	0.37%
50単元以上	0.33%
10単元以上	4.96%
5単元以上	5.67%
1単元以上	87.15%
1単元未満	1.52%

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL.0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 株式会社東京証券取引所(証券コード3392) 電子公告により行う
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所(証券コード3392)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載 URL http://www.delica.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



デリカフーズホールディングス株式会社

DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



【お問い合わせ】 TEL 03(3858)1037 FAX 03(5851)1056



本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、大豆油などをリサイクルして作られたベジタブルインクを使用しています。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。